



前回の政策特集「交通から宇都宮のまちづくりを考える」に対して106人の市民の皆さんから意見をいただきました。代表的なものを紹介します。

(1) 公共交通をより利用しやすくするために必要だと思うことはありますか？

- 待たずに乗れる、時間どおりの運行、所要時間の短縮、適正な運賃。(茨城県・40代)
- 車の運転ができなくなった時のことを考えると、地域内交通や小型バスの充実が必要。(上戸祭・70代)
- バスに乗る際、乗り場が多く案内所が分かりやすいところがないため、利用しづらい。分かりやすい案内情報の提供が必要だと思う。(匿名)
- LRTとバス、車、自転車などとの乗換えを便利にするため、LRT停留場、バス停、駐車場、駐輪場などを設置した乗り換え施設が必要。(鶴田町・70代)
- バス位置情報提供システムの導入、ICカードと乗り継ぎ割引の導入、乗車方法の見直し、運行時間や本数の適正化などが必要。(西の宮・20代)
- LRTを含む交通網を確立することが必要。現在、公共交通を利用したくても利用したい時間帯に運行していないため、どうしても車を利用するしかない。(匿名)
- 高齢者の通院や買い物、学生の通学などに不便を感じている。路線バスについて利用できない区域に運行してほしい。(石井町・60代)

(2) 市の交通政策に期待したいことは何ですか？

- 自転車走行空間の整備が、全体的にまだまだ不足していることから、安全性の向上のために、より推進してほしい。(匿名)
- 宇都宮で生まれ育った人は車に慣れているため、長期目線で成し遂げてほしい。(台新田町・30代)
- 市が推し進めようとしているLRT整備について、十分に理解していない市民もいることから、将来のまちづくりのイメージや、事業の採算性、車線減少に伴う渋滞対策など、丁寧な説明を継続して行っていくべきである。(匿名)
- 車がなくても生活できる公共交通政策を推進してほしい。もっと公共交通の魅力、メリットをPRしてほしい。(石井町・30代)
- 急速な高齢化による活力の低下を克服するためにも、中心市街地活性化が必要であり、その為に公共交通機関の政策は最も重要課題だ。(上戸祭・60代)
- 住みよい街づくりのためには、通勤通学の移動手段を充実させることが重要なポイントの一つ。住みよい街でなければ企業を誘致できず、税収も落ち込み、街づくりに投資できない。近隣市町も含めた広域交通システムを構築してほしい。(清原台・50代)
- 宇都宮の観光ルートに1日乗車券などを発行し、大谷や八幡山公園、梨・イチゴ刈り等観光地を回れるようにしてほしい。(雀の宮・70代)

広報うつのみやの政策特集は、皆さんと一緒に考えていただきたいテーマを取り上げ、年4回編集します。

前回の政策特集「交通から宇都宮のまちづくりを考える」の概要



宇都宮は自動車があれば暮らしやすい？

目的地までドア・ツー・ドアで移動できる自動車交通は、物流や人の移動を自由で容易にし、私たちの暮らしに恩恵をもたらしました。一方で、市街地の広がりや中心市街地の機能低下、交通事故や渋滞の増加、環境面での負荷、公共交通利用者の減少などの課題が生じています。

さらに、超高齢化社会を迎えて自動車が運転できずに「買い物難民」となる市民の増加が懸念されるなど、過度に自動車交通に依存した社会から公共交通と自動車交通が共存できる社会への転換が求められています。

新しい公共交通ネットワークへ

公共交通と自動車交通とが共存できる社会への転換には、現在の公共交通網を、幹線・支線・地域内交通など役割に応じて再度組み立て直し、さまざまな交通手段が効率良くなつたネットワークに変えていく必要があります。それを、「魚の骨ネットワーク」と考え、中心(背骨)となる東西基幹公共交通には、定時性や速達性を備えたLRTを導入し、支線にはバス路線(小骨)の新設や地域内交通の導入などに取り組み、公共交通空白・不便地域を解消し、「いつでも、だれでも、どこへでも」移動可能な公共交通ネットワークの構築を進めます。



料金受取人払郵便

宇都宮支店
承認
3191

差出有効期間
平成26年8月
15日まで

【切手不要】

3 2 0 8 7 4 0

(受取人)

宇都宮市旭1丁目1番5号

(宇都宮市役所)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

行



3 2 0 8 7 4 0

3

氏名	住所	
年齢	歳	職業

差し支えがなければ記入してください。広報紙で意見を紹介する際には、氏名の記載はしません。なお、はがきの情報については、目的以外には使用しません。